

長雨への備え、万全ですか？

6月は梅雨の季節。

雨が連続と災害が心配ですね。長雨への備えは万全ですか？

今回は、長雨による災害の備えとして、自分で身を守る(自助)方法と、地域での助け合い(共助)や絆の大切さを、皆さんに知っていただければと思います。

なお、今月号と一緒に「防災情報シール」をお配りしています。

防災無線が聞こえないときにシールに書かれた番号にかけると、放送内容が確認できます。電話機の近くなどに貼っておくと便利です。ぜひご利用ください。

小さなことでも、備えて大事なんです。あなたの命を守る一手になるかもしれません。

防災危機管理室 (☎822-0480)

備えつて、大事

防災無線がよく聞こえないときは…
☎0180-999-002
インターネットでもご覧いただけます。
防災無線で検索
市役所へお問い合わせは…長崎市コールセンター(あじさいコール)
朝9時～夜9時/年中無休 ☎095-822-8888

▲ 防災情報シールは、市役所本庁や支所、行政センターの窓口にも置いています

準備と心構えは大丈夫？

長崎市は、地形的・地質的に、長雨によるがけ崩れなどが起きやすいので注意が必要です。しかし、「どんな備えをすればいいの?」と思ったかたは、次のような準備をしてみてもいいでしょうか。準備と心構え、助け合いの気持ちで、災害に備えましょう！



役割分担と避難所などの確認

事前に家族内での役割を話し合い、避難所や避難経路、家族が離れ離れになったときの連絡方法や集合場所も確認をしましょう。
 また、お年寄りや病人など一人での避難が難しいかたの支援を日ごろから確認し合い、地域で協力しあって被害を最小限に抑えましょう。

家や周囲の点検と整備

雨どいや側溝は掃除し、水の流れをよくしましょう。塀や壁などの破損箇所は修理や補強を。

危険な場所を知っておこう

近所に崩れやすいがけなどの危険箇所がないか確認して、避難するときは通らないようにしましょう。危険箇所はホームページ「長崎県電子国土総合防災GIS」でも確認できます。

非常持ち出し品の準備

ヘルメット、懐中電灯、ラジオ、電池、応急医薬品、非常食品、貴重品などは、すぐ持ち出せる場所へ準備をしておきましょう。

気象情報のチェック

適切な対応ができるよう、警報や注意報などに注意を。また、各地の雨量や主要な河川の水位の観測情報・土砂災害危険度情報は、ホームページ「長崎県河川砂防情報システム」や、テレビのデータ速報でも確認できます。

土砂災害には「前ぶれ」が!

《がけ崩れ》

がけにひび割れができる

がけからの湧き水の量が増える

がけから小石がバラバラ落ちる

《土石流》

山鳴り

川の水が濁ったり、流木が混ざり始めたりする

雨が降り続けているのに川の水位が下がる

《地すべり》

地面やよう壁にひびが入る

沢や井戸の水が濁る

斜面から水が噴き出す

危険を感じたらすぐに避難を

- 避難する前に、火の元、戸締まりの確認を。
- ヘルメットなどで頭を保護し、長そで・長ズボン、底の厚い靴を着用。非常持ち出し品は背負う。
- お年寄りや病人などに声を掛け、近所の人たちと一緒に行動する。※避難所へ避難するときは、事前に防災危機管理室へ連絡を。

「土砂災害には『前ぶれ』が!」は、詳しくは土木維持課(☎829-1164)へ

防災無線が聞こえなかった! こんなときは...

- ・ ☎ 0180-999-002 ※一部の電話機から利用できない場合があります。
- ・ 市ホームページ ※最初の画面に表示されます



約150年に渡る継承

太田尾町の山川河内地区は、三方を山に囲まれ、昔から35世帯ほどが暮らしています。

1860年に発生した大雨による土石流で、33人が犠牲になりました。

そして、遺体の搜索を打ち切った翌日の14日を月命日としました。そこで犠牲者を弔う「念仏講まんじゅう」を毎月14日に地域の全世帯へ配り、約150年間継続してきました。



この取り組みで災害体験を世代を超えて継承した結果、長崎大水害では、迅速な自主避難などができ、犠牲者が出ませんでした。

この歴史などは高く評価され、消防などが主催する「防災まちづくり大賞」を今年受賞。

自治会長の松田さんは「当たり前」に活動を続けてきただけです。このような絆は、教えるというよりも、自然と身につくものだと思います。子どもたちが、続けたいと言っているのがうれしいですね。また、地域行事でも絆は自然と育まれているはず。この地区は行事が多く、住民同士のつながりが強いので今後ともそれを大切にしていきたいですね。地域の絆は、さまざまな場面での重要性を教えてくださいます。あなたも家族や地域の人と一緒に考えてみませんか。

まんじゅう配り 災害を継承

心構え・助け合いといえ、^{さんぜんごうち}山川河内自治会(太田尾町)の災害体験の継承。この活動は、「地域の絆と助け合いの大切さ」を教えてくださいます。

「馬頭観音」へまんじゅうを供え念仏を唱えた後、各世帯へ配っています(一番左は松田会長)。



1982年7月に発生した、長崎大水害での同地区の被害写真。山津波は家や畑、川など地域を丸ごとのみ込みましたが、犠牲者は一人も出ませんでした。

